

増殖性腸炎 (腸腺腫)



増殖性腸炎はローソニア・イントラセルラリス（以下、ローソニアという）が原因で起こる豚の下痢症です。本症は、感染時期により症状が異なります。

感染経路

ローソニアにより汚染された糞便を口から摂取することで、感染が広がります。

☹️ 豚舎内で糞便を介した水平感染

☹️ 糞便のついた長靴など人を介した感染の拡大

食肉検査では

慢性型の病変が見つかります。

小腸末端部の腫大と腸間膜の水腫がみられます。

小腸粘膜は不規則に肥厚し偽膜を形成しています。

その場合、病変のある小腸が廃棄となります。

予防・対策

😊 衛生管理の徹底

😊 抗生物質による治療

😊 ワクチン接種

急性型・・・肥育後期、繁殖候補豚

○暗赤色、タール状の血便を排出します。

○致死率が50%に達することもあります。

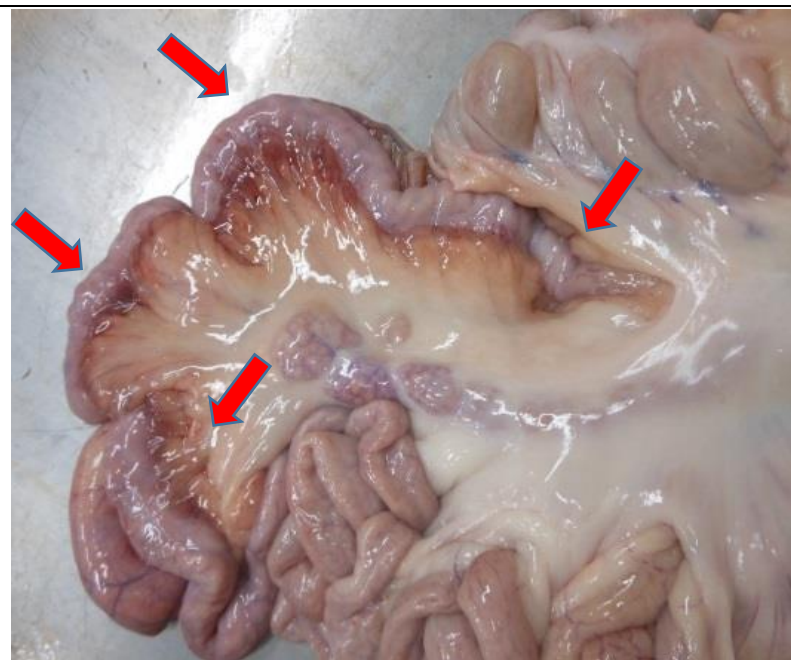
○急性型は死亡するか、または回復して慢性型に移行することもあります。

慢性型・・・離乳期から肥育期

○軽度の下痢が見られる程度のため、農場では気付かれず、と畜場で発見されるケースがほとんどです。

○群全体の増体低下や飼料効率低下がみられます。

○経営的には慢性型の方が影響が大きいといわれています。



予防・対策については、かかりつけの獣医師にご相談ください。

リーフレットへの問い合わせは、下記へご連絡ください。

北海道東藻琴食肉衛生検査所 TEL 0152-66-2001

FAX 0152-66-3576

E-Mail : abashiriho.higashi1@pref.hokkaido.lg.jp

(迷惑メール防止のため「@」を全角にしています。メールを送る際は、半角に置き換えてください)